

2021年度 福島イノベーション・コースト構想推進機構

見える化セミナーinなみえ

2022年 1月 23日

「東京農業大学における浪江町での農業再生 に向けた取り組み」

報告者： 菅原 優（東京農業大学 自然資源経営学科 教授）



福島浪江町における農業“新興”に向けた取り組み【成果】 ～担い手育成に向けて～

■目的

東京農業大学の“復興知”を結集し、(株)舞台ファームと浪江町とともに「産官学一体」とな
って、学生の現地での活動として、①就農拡大、②6次産業化推進、③スマート農業推進の
取組みを行うことによって農業の“新興”を目指す。

■就農拡大・スマート農業推進

(株)舞台ファームの協力のもと、学生が津波被害を
受けた棚塩地区で稲刈りを体験し、高性能のコンバ
インの操縦や農薬散布用のドローンの操縦体験を行
うことで、将来的な担い手育成に向けての技能向上
につなげることができた。

■6次産業化推進

学生が収穫した米を「浪江復興米」として道の駅で
販売、商品の販売体験のみならず、浜通り地域の
農業復興の象徴として発信できた。

■各研究室・ゼミ単位によるプロジェクト活動

・ペピーノの加工、エゴマ・景観樹木、花卉支援、担い
手育成調査



●3年間の活動を通じて

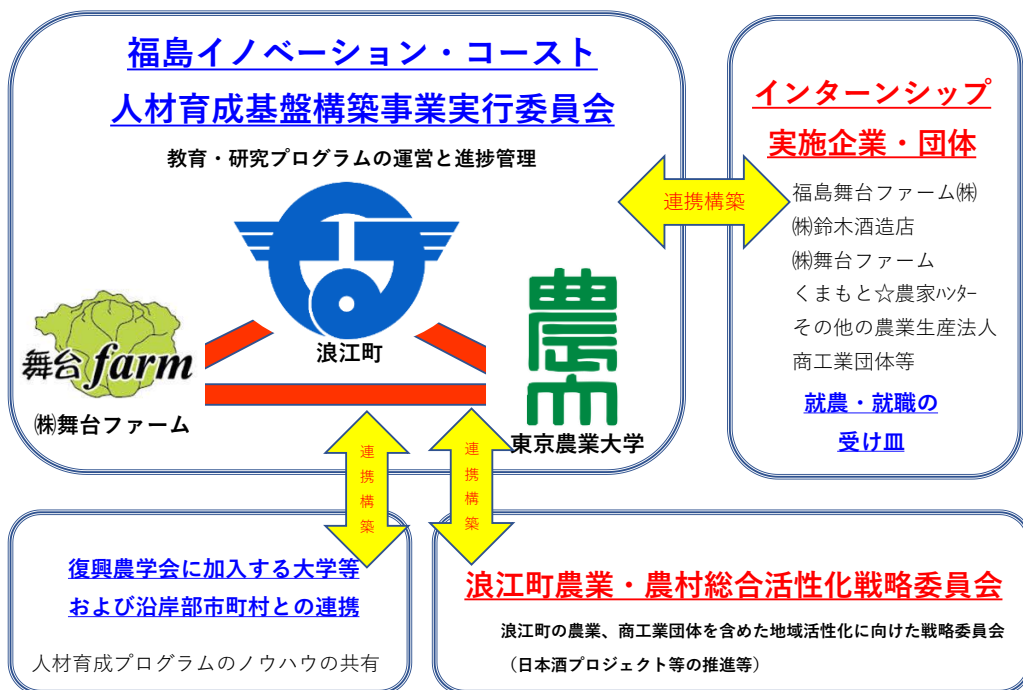
浪江町役場を現地拠点として、大学
教員や学生が現地で活動する拠点お
よび活動基盤を構築できた。
(本学学生2名が本プロジェクトで連携
する鈴木酒造店(浪江町)に就職)

2021年度～ 大学等の「復興知」を活用した人材育成基盤構築事業 「インターンシップ型農業・農村総合活性化 戦略プロジェクト」の取り組み

■ 目 的

意向調査によれば浪江町への町民の帰還意向は低く、地域を再生させるには、更なる移住・定住などの外部からの人材定着が課題

そこで本事業では、【インターンシップ型】教育研究プログラムを実施し、地域企業等との連携による戦略的プロジェクトを展開し、新規就農・地域企業等への人材定着、「復興支援サポーター」育成を通じて農業・農村総合活性化に取り組む。



● 教育研究プログラムの 特徴

浪江町の基幹産業である農業分野の人材のみならず、加工製造業、飲食店・サービス業などの商工業分野の人材の育成と地域への輩出を目指した人材育成の教育研究プログラムとする。あ

■今年度の活動内容

インターンシップ型教育研究プログラムの実施内容

●参加者人数: **実人数: 学生52名(延べ236名)、社会人3名**

3～4回のリーダーもいる (学内全体に参加を募る)

- 「復興浪江学」9/24: **24名** (Zoom)、11/14: **18名**、 1/9: **15名**
- 「新規就農実践講座」9/24: **25名** (Zoom)、11/14: **18名**、12/18,19: **22名**
- 「一般農業実習プログラムコース」田植え・稲刈り中止、10/28,29: **17名** エゴマ収穫、12/18,19: **22名** 浪江復興米の販売
- 「特別実習プログラムコース」10/30 : **4名** 玉ねぎ定植、1/29,30 桜の苗木作業**予定**
- 「特別インターンコース」 2/1-4**予定**
- 「現地見学」10/2: **16名**、11/13: **18名**、12/19: **22名** (農家見学、CE施設見学、町内見学等)
- 「シンポジウム」1/10: **15名** (基調講演、ワークショップ、活動報告)
- 学内で「浪江復興米」販売キャンペーン(パッケージデザイン)

一般農業実習プログラムコース



10月2日 苅宿地区CE施設見学(稲刈り中止)



10月28-29日 エゴマ収穫作業



10月28日 鳥獣被害対策フェンス設置

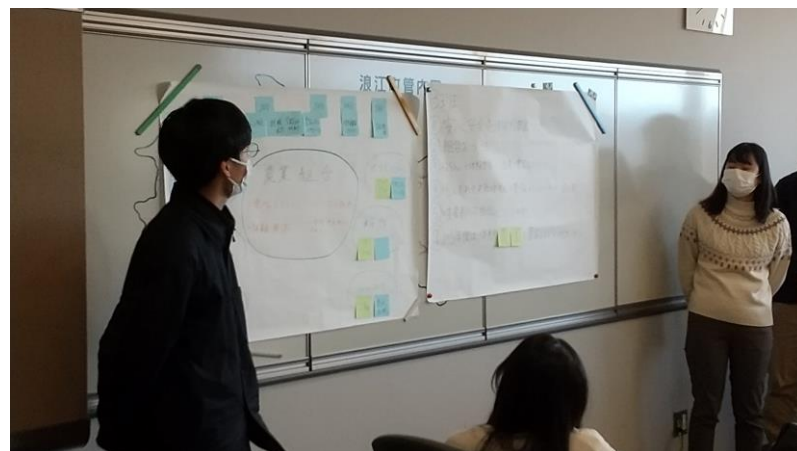


12月18-19日 「浪江復興米」販売実習

新規就農実践講座



11月14日 (株)マイファーム・石原氏による講座と浪江町新規参入就農者・和泉氏の講話



12月18-19日 ワークショップでの就農ビジネスプランの検討とプレゼンテーション

■来年度以降の活動内容

インターンシップ型教育研究プログラムの実施内容



学生と農家のマッチング

- 田植え作業から一貫した実習の実施
- 加工品開発
- 地域の祭りやイベントへの参画

1月10日 次年度活動に向けた町民・農家・役場職員と学生のワークショップ

●卒業後も大学生が浪江町と関わりをもてる仕組みの構築

★学生企画プロジェクト(加工品、イベント企画など)

■人材育成と地域活性化

①「復興支援サポーター」の育成と活動

②浪江町への新規就農および地域企業等への就職による人材定着

③商品開発(ペピーノ、エゴマ、日本酒(地元の米と水を使った復興酒))

④ふるさと再生・空間演出(桜:景観樹木、農と食のイベントの企画)

もっとアグリエイティブ！

Agriculture(農) creativity (創造する楽しみ)

農業には、地域を活性化できる仕事を創り出し、
地域産業を元気にできる可能性がある



今や農業のビジネスモデルは無限大